

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【蓮沼小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的には、知識・技能の定着を見取ることができた。しかし、個人差は大きいことから個別に必要な支援を継続して行っていく必要がある。主語述語の関係については学校全体で系統的に取り組んできた結果が出てきた。「当該学年の前の学年別漢字配当表」に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。」においては、全学年での課題であると考え、「基礎定着」の時間、ドリルパーク等を活用し、漢字学習の反復・習熟に取り組む。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」が課題であるため、様々な教科で、話し手の意図をとらえながら聞き、必要に応じて記録を取り、自分の考えがもてるようにするために、授業改善を進めながら全学年で教科横断的・系統的に進める。来年度は、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」で肯定的な回答の割合を維持する。
主体的に学習に取り組む態度	「学習や運動、当番などをしっかり最後までがんばっていますか。」の肯定的な回答の割合を90%以上を維持していきたい。「勉強は好きですか」という設問においては、肯定的な割合が低い一方、「コンピュータを使って調べたり、まとめたりする学習をすることができましたか。」「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。」では肯定的な割合が非常に高い。効果があると児童一人ひとりが考えているため、継続してICTの活用及び、個人のポートフォリオを活用した児童の振り返りを推進し主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査及びR4年度市学習状況調査の自校結果より国語の「知識・技能」において2pt向上させる。国語科の「知識・技能」において自校テストで80%以上にする。	⇒ 毎週「基礎定着」の時間を設け、児童の実態に合わせてドリルパークやスタディ・サプリ等を効果的に活用し、国語の基礎・基本となる語彙等の反復・習熟に取り組む。月に1度、スタディオグ等を使い個別に学習計画を立てる(見直す)時間を設定する。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査及びR4年度市学習状況調査の自校結果より国語の「思考・判断・表現」において2pt向上させる。R4年度さいたま市学習状況調査「生活習慣に関するアンケート」項目64「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか」で肯定的な回答の割合を2pt向上させる。	⇒ 毎週「朝読書」の時間を設け、読むことへの興味・関心を高める。オクリンクや共同編集機能等を活用して「協働的な学び」を進める。「相手意識」「視点」「目的」を授業内で児童一人ひとりが明確にできるような発問やワークシートを活用し、探究的な学びのアウトプットの機会を積極的に設ける。
主体的に学習に取り組む態度	学校評価アンケート(児童)における「学習や運動、当番などをしっかり最後までがんばっていますか。」の肯定的な回答の割合を90%以上を維持する。	⇒ 教師が児童一人ひとりの学習課題や学習計画を設定できるよう積極的に助言する。また、児童がGIGA端末を活用しながら、自分の学習履歴を把握し、学習の進め方を自ら調整していくことができるよう支援を行う。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査では、R4年度全国学力・学習状況調査より「知識・技能」において-2.7ptであった。R5年度市学習状況調査では、R4年度市学習状況調査より「知識・技能」-0.5ptであった。	B
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査では、R4年度全国学力・学習状況調査より、国語科の「思考・判断・表現」において-0.8ptであった。R5年度さいたま市学習状況調査「生活習慣に関するアンケート」項目38「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」で肯定的な回答の割合が90.7(小5)91.3(小6)で、高い割合であった。	A
主体的に学習に取り組む態度	学校評価アンケート(児童)における「学習や運動、当番などをしっかり最後までがんばっていますか。」の肯定的な回答の割合は98%であった。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語-2.7pt、算数-2.3ptであった。国語では学年別漢字が文の中で正しく使うことができる、送り仮名を文中で正しく使うことに課題がある児童が多かった。算数の「図形」領域において課題がみられた。正三角形の意味や性質の理解していないことが考えられる。
思考・判断・表現	国語の「書くこと」における自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる問題に課題がみられた。「読むこと」では文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる出題に課題があると考えられるため、資料から読み取ったことを伝え合う活動を重視していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合がR4年度と比べると+4.8ptであった。継続して、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」において、R4年度調査より、国語 -15.3ptであった。「主語と述語の関係」については、市平均よりも高く、系統立て継続してきた指導の結果であると考え。「当該学年の前の学年別漢字配当表」に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。」に課題がある。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」において、R4年度調査より、国語 +8ptであった。「当該学年の前の学年別漢字配当表」に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。」に課題がある。また「目的に応じて、中心になる語や文を捉えて、文章を読むことができる。」にも課題があり、読むことにおいて、教科横断的に指導をしていく必要がある。
小5	R5年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」において、R4年度調査より、国語 +5.7ptであった。「必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。」に課題がある。	小6	R5年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」において、R4年度調査より、国語 +4.8ptであった。「文の中の主語と述語の関係を理解している。」では高い割合であり、系統立て継続してきた指導の結果であると考え。「当該学年の前の学年別漢字配当表」に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。」に課題がある。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果から学年別漢字配当表に示されている漢字の定着に課題がみられたため、該当学年だけでなく、既習の学年の復習・繰り返しを実施する。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 共同編集等をつかい考えのまとめ方や相手に伝える書き方を児童同士で共有しあい、伝え合う機会を増やしていく。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし